

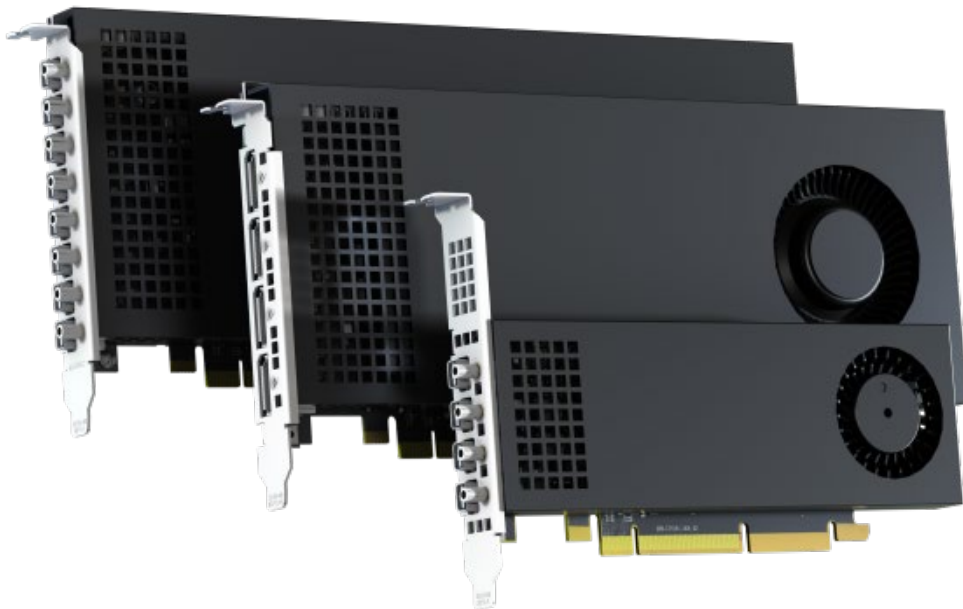


Matrox LUMA Pro シリーズ

LUMA-A310FP / LUMA-A380P /

LUMA-A380P8

取扱説明書





安全のために必ずお読みください

本書をお読みいただき正しい方法でご使用ください。誤った使用方法による危険を表すものとして下記の表示を使用しています。






 警告 誤った取り扱いをした場合に死亡や重傷などの重大な結果を伴う可能性があることを表します。	 注意 誤った取り扱いをした場合に軽傷を負うか、物的な損害が生じる可能性があることを表します。
---	---

記号の説明

	注意を促すことを表します。
	してはいけないこと（禁止）を表します。


警告

万一異常が発生した場合は直ちに使用を止め、機器を安全な場所へ移動してください。異常があるまま使用すると火災、感電の原因となることがあります。

	異常な発熱がある場合や、煙を発した場合、また不自然な臭いを感じた場合は、直ちに PC をシャットダウンして使用を中止してください。
	壊れた機器や異常のある機器を本機に接続しないでください。本機の故障の原因になるだけでなく、火災や感電の原因となる場合があります。
	水に濡れた場合や、内部に異物が入った場合は使用を中止してください。
	濡れた手で本製品を取り扱わないでください。感電の原因になります。
	本機を分解する、独自の修理を行う、または改造するなどしないでください。火災、感電の原因となる場合があります。



注意

注意事項をよくお読みください。誤った設置方法や取り扱いによって機器に故障が生じ、火災、感電の原因となる場合があります。

	本機は屋内での使用を前提としております。屋外では使用しないでください。故障の原因となる場合があります。
	静電気による破壊を防止するため、本製品を設置・保管・運搬等する場合には十分にご注意ください。
	端子部分やファン等の可動部には指などで直接触れないでください。
	本機を磁気の強い場所、または磁気の強い物のそばに置かないでください。
	本機を密閉された狭い場所には設置しないでください。また通気のある場所に設置してください。密閉された通気のない場所で使用すると本体の温度が上がり故障の原因となります。
	高温、湿度の高い場所、温度変化の大きい場所、または湯気、油煙にさらされる場所には設置しないでください。故障の原因となります。また結露したまま使用しないでください。

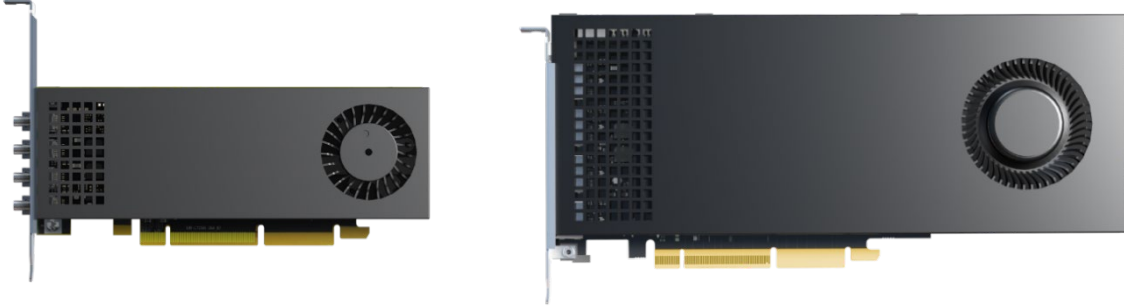
目次

1	ボード概要	6
2	動作環境	7
3	LUMA Pro の取り付け	8
3.1	PC への取り付け	8
3.2	複数ボードの取り付け	9
3.3	複数ボードの相互接続（フレームロック）	9
3.4	ディップスイッチの設定	10
4	ディスプレイとの接続	11
4.1	接続前の注意事項	11
4.2	LUMA-A310FP / LUMA-A380P8 とディスプレイの接続	11
4.3	LUMA-A380 とディスプレイの接続	12
5	ドライバーと Matrox PowerDesk のインストールとアンインストール	13
5.1	ドライバーのインストール	13
5.2	ドライバーのアンインストール	17
6	Matrox PowerDesk の設定	18
6.1	メインメニュー	18
6.2	Multi-Display Setup	19

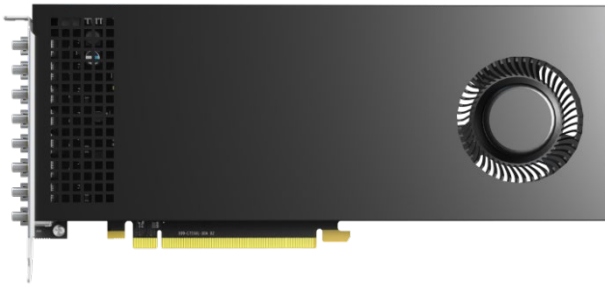
6.3 Edge Overlap and Bezel Management.....	24
6.4 Keyboard Shortcuts.....	25
6.5 Administrator Options	26
6.6 Help and Troubleshooting.....	26
6.7 About.....	27
7 製品仕様.....	28
7.1 グラフィックボード仕様.....	28
7.2 環境仕様.....	29
7.3 注意事項と制限事項.....	29


1 ボード概要

- Quad (4 出力)モデル LUMA Pro A310FP (型番 : LUMA-A310FP)
- Quad (4 出力)モデル LUMA Pro A380P (型番 : LUMA-A380P)



- Octal (8 出力)モデル LUMA Pro A380P8 (型番 : LUMA-A380P8)



出力コネクタ	映像出力端子 4 口 - A310FP: Mini DisplayPort - A380P: DisplayPort 映像出力端子 8 口 - A380P8: Mini DisplayPort ※miniDP 端子タイプにはケーブル固定用端子有り
PCI Express 端子	PCI Express ver4.0 対応 16 レーン
付属金具 (A310FP のみ)	A310FP にはロープロファイルサイズのコネクタが付属 

2 動作環境

必要環境

- ◆ PCI-Express スロット (16 レーン) ※PCIe ver 4.0 以降
- ◆ 同一仕様のディスプレイ

対応 OS

- Windows 11 (24H2 まで)
- Windows 11 64-bit LTSC (24H2)
- Windows 10 64-bit (21H2 以降)
- Windows 10 64-bit LTSC (21H2 以降)

対応システム・プラットフォーム

- 第 10～14 世代の Intel® Core™ プロセッサファミリー
- Intel® Xeon® W-35xx/25xx/34xx/24xx プロセッサ
- その他 Matrox 社で動作検証済のシステム (以下 WEB ページ参照)

<https://video.matrox.com/en/Products/video-walls/luma-Pro-series/validated-platforms>

※Resizable BAR (reBAR)または Smart Access Memory(SAM)に対応したシステムが必要です。

3 LUMA Pro の取り付け

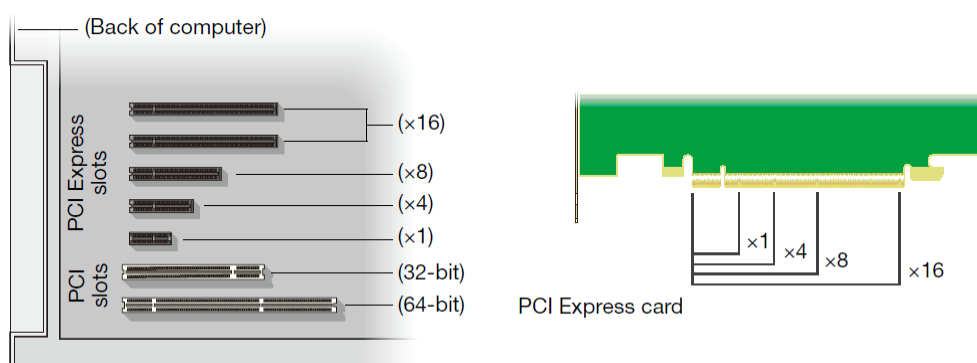
注意：

- ・ LUMA Pro および MURA IPX シリーズ以外のグラフィックボードを共存させることはできません。
- ・ 既存のグラフィックドライバーは必ずアンインストールした状態で、LUMA Pro の取り付けを行ってください。
- ・ オンボードグラフィックス機能がある場合は、BIOS 上で無効にしてください。または PCI Express の GPU が優先されるよう設定してください。詳しくは PC およびマザーボードのマニュアルをご参照ください。
- ・ 本製品は精密機械ですので静電気を与えたり、ボード上の回路に触れたりしますと故障の原因となります。取り扱いには十分ご注意ください。

3.1 PC への取り付け

- ① PC 本体の電源スイッチを OFF にして、PC 本体から電源コードを抜きます。
- ② LUMA Pro グラフィックボードをスロットに装着します。
- ③ PC の電源を入れる前にディスプレイを接続して下さい。接続後、PC を再起動して Matrox のソフトウェアをインストールします。

警告：ほとんどの PC は数種類のスロットを装備しています。Matrox LUMA Pro には、PCI Express x16 スロットを選択してください。間違ったタイプのスロットに装着した場合、ボードや PC の故障の原因となりますのでご注意ください。



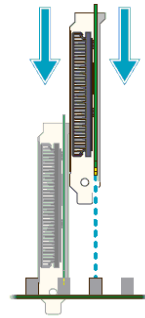
3.2 複数ボードの取り付け

LUMA Pro ボードは、1 台の PC に複数インストールすることが可能です。4 出力 Quad モデルは最大 4 枚、8 出力 Octal モデルは最大 2 枚まで相互接続(フレームロック)可能です。

- ※ 全ての PC において、複数枚での動作を保証するものではありません。事前に動作確認を行ってください。
- ※ LUMA PRO シリーズでは、異なるモデルのボードを組み合わせることはできません。必ず同一モデル同士のボードを組み合わせをご利用ください。
- ※ 既にボードをインストール済の状態の後から追加をする場合は、必ず最初にドライバーをアンインストールし、ボードを追加してから新しいドライバーをインストールして下さい
- ※ Matrox 製グラフィックボードの M シリーズ・D シリーズ (D1480 モデル)に搭載されていた「Join graphics cards」の機能は 2026 年 1 月現在、サポートされておりません。

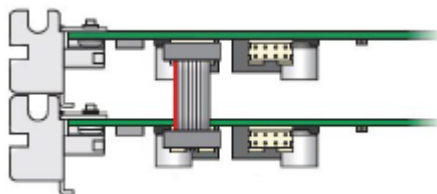
警告：

ボードをスロットに取り付ける時は、スロットに対して真っ直ぐに挿入してインストールし、ボードを左右に揺らさないでください。また、引っかかりを感じた場合は、無理に押し込まないでください。ボードの故障の原因となりますので十分にご注意ください。

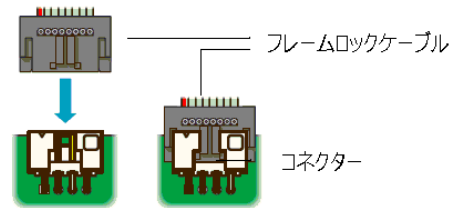


3.3 複数ボードの相互接続（フレームロック）

2 枚以上のボードを取り付ける場合、フレームロックケーブルでグラフィックボードを相互接続することにより、ボードの全ての出力をフレームロックすることができます。フレームロックケーブルを 1 枚目のボードの左右いずれかのコネクタに接続し、次のボードの同じ位置のコネクタに接続します。



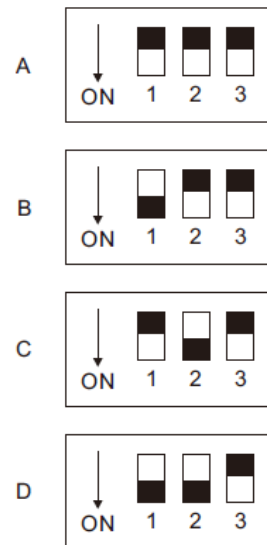
注意： フレームロックケーブルを接続する向きに十分ご注意ください。フレームロックケーブルの片側は、目印のため、赤いケーブルになっています。この赤いケーブルが、グラフィックボードのブラケット側へ向くように接続してください。



3.4 ディップスイッチの設定

複数ボードを使用する際、ボードに搭載されたディップスイッチの設定をすることでボードの認識順を予め決めることができます。この機能は、複数ボードを使用する大規模なビデオウォールを構成する場合などに便利です。認識順序を設定することで、Matrox PowerDesk ソフトウェア（以降 PowerDesk と呼びます。）がビデオウォールの出力を適切に並べることができるようになり、レイアウトを手動で設定する必要がなくなります。

ディップスイッチは2つのフレームロックケーブルコネクタの横にあります。ディップスイッチのパターンは右図の4通りあり、A (1:OFF/2:OFF/3:OFF) → B (1:ON/2:OFF/3:OFF) → C (1:OFF/2:ON/3:OFF) → D (1:ON/2:ON/3:OFF)の順に認識されます。認識させたい順に右図の通りに設定して下さい。なお、ディップスイッチを設定しない場合のボードの認識順は、PCに依存します。



4出力 Quad モデルの場合、右図のパターン A 設定時には PowerDesk 上で A として識別され、その他も同様にそれぞれ B,C,D として識別されます。8出力 Octal モデルの場合、右図パターン A 設定時には AB として認識され、その他は順に CD, EF, GH として認識されます。

	PowerDesk 識別 (4出力)	PowerDesk 識別 (8出力)
DIP パターン A	A	AB
DIP パターン B	B	CD
DIP パターン C	C	EF
DIP パターン D	D	GH

4 ディスプレイとの接続

4.1 接続前の注意事項

ボードおよびディスプレイの破損を避けるため、接続を行う前に以下の項目について確認を行ってください。

- 接続するディスプレイは、全て同一仕様のものご利用ください。
- 全てのコネクタが接続・固定されていることを確認してください。
- 変換アダプターについては、LUMA-A310FP および LUMA-A380P8 モデルは Mini DisplayPort から DisplayPort・DVI・VGA (アクティブ)・HDMI への変換をサポートし、LUMA-A380P モデルは DisplayPort から DVI・VGA (アクティブ)・HDMI への変換をサポートしています。

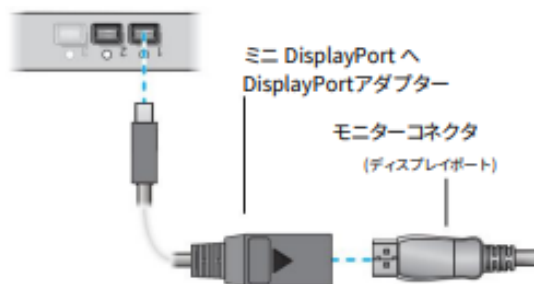
※HDMI への変換はパッシブアダプターご利用の場合 4K30P までの対応です。

※LUMA-A380P8 モデルは製品に同梱されている mini DisplayPort → DisplayPort ケーブルを使用して下さい。

- ディスプレイに複数端子が搭載されている場合、使用を推奨する端子は以下の順です。
DisplayPort > HDMI > DVI > VGA
- PC の電源が入っている状態でディスプレイの接続を変更しないでください。PC 起動中に接続中のディスプレイ接続に固有の設定が適用されていることがあります。その場合、設定を変更せずに接続を変更することで機器に損害を与える可能性があります。
- PC を再起動する際は、必ずモニターの電源が入っている状態で行ってください。正常にモニターを検知できない可能性があります。

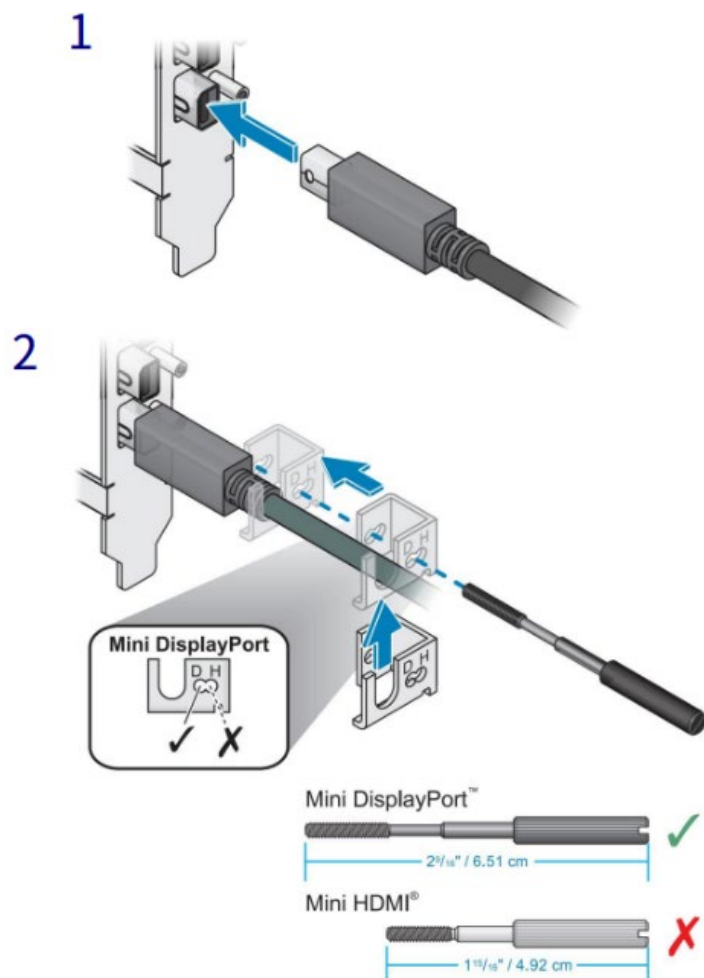
4.2 LUMA-A310FP / LUMA-A380P8 とディスプレイの接続

モニターに搭載されている端子(DisplayPort, HDMI, DVI, VGA)に合わせて変換アダプターを使用しボードとディスプレイを接続します。(※VGA はアクティブ変換アダプターのみ対応)



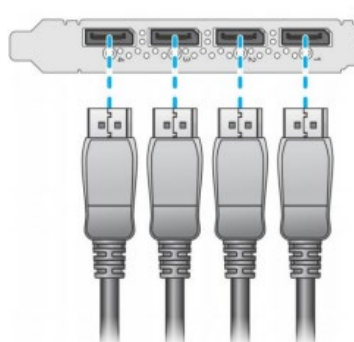
ディスプレイとの接続が完了したら、ディスプレイ→PC の順で電源を投入します。

※別売ケーブル固定端子金具 (型番 : SK-SLNB-4F) 接続方法



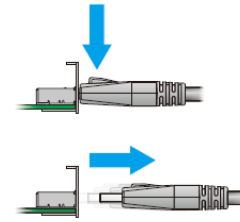
4.3 LUMA-A380 とディスプレイの接続

モニターに搭載されている端子(DisplayPort, HDMI, DVI, VGA)に合わせて直接または変換アダプターを使用してボードとディスプレイを接続します。(※VGA はアクティブ変換アダプターのみ対応)



ディスプレイとの接続が完了したら、ディスプレイ→PC の順で電源を投入します。

注意： DisplayPort コネクタには、落下防止の為にラッチが装備されています。コネクタを抜く際は、ラッチを押し込み、ロックを外した状態で行ってください。そのままの状態で行くとコネクタ破損の原因となりますのでご注意ください。



5 ドライバーと Matrox PowerDesk のインストールとアンインストール

5.1 ドライバーのインストール

Windows 環境にドライバーをインストールします。ドライバーは Matrox 社のホームページから最新のをダウンロードして下さい。なお、Matrox 独自の機能进行操作するユーティリティである Matrox PowerDesk はドライバーと同時にインストールされます。

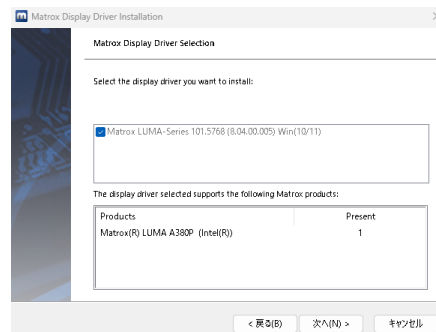
<https://video.matrox.com/en/apps/drivers/graphics/download/luma-series>

プラグアンドプレイ機能によりグラフィックボードを装着後に PC を起動すると Windows が新しいデバイスを検出して「新しいハードウェアの検索ウィザード」が表示される場合がありますが、このダイアログはキャンセルして閉じてください。

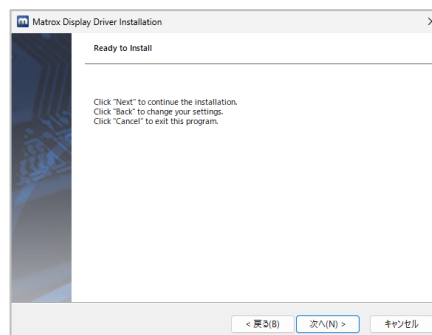
- ① ダウンロードしたファイルをダブルクリックしてインストールを開始します。



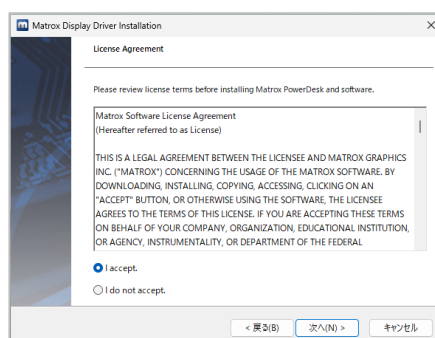
- ② インストールするディスプレイドライバーが表示されます。選択されているディスプレイドライバーが現在使用している Matrox 製品をサポートしているか、ダイアログ下部で確認してください。「次へ」をクリックします。



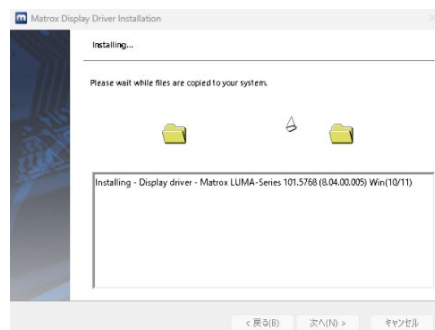
- ③ ドライバーのインストールを開始する画面が表示されますので、「次へ」をクリックします。



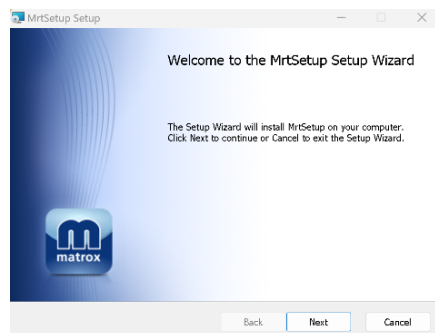
- ④ ライセンス条項に同意する場合は、「I accept」を選択して「次へ」をクリックします。「I do not accept」を選択するとドライバーのインストールを終了します。



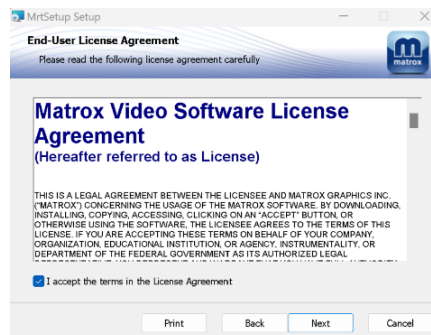
- ⑤ インストールが開始されます。



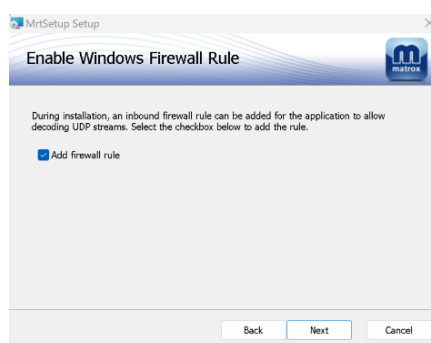
- ⑥ インストールの途中で「MrtSetup Setup」ウィザードが表示されます。MrtSetup は、Matrox 社の別製品と組み合わせてご利用頂く場合などに使用します。「Next」をクリックし、インストールを行います。



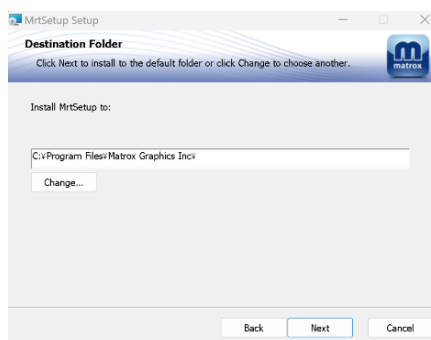
- ⑦ ライセンス条項が表示されますので、「I accept the terms in the License Agreement」にチェックを入れて「Next」をクリックします。



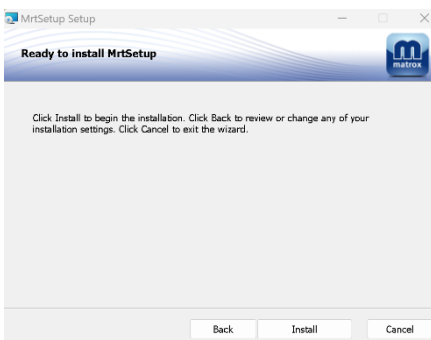
- ⑧ Windows のファイアウォールの設定で UDP のポートを開放するか否かを選択します。不要な場合、チェックを外してもそのままインストールを進めることが可能です。「Next」をクリックして進みます。



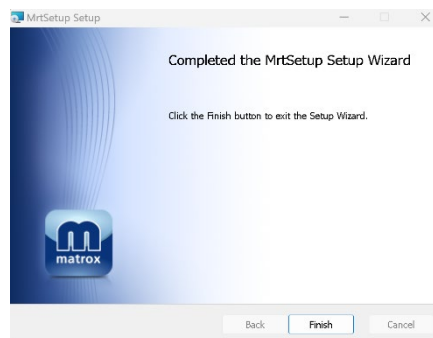
- ⑨ インストールフォルダを指定します。変更せず「Next」をクリックします。



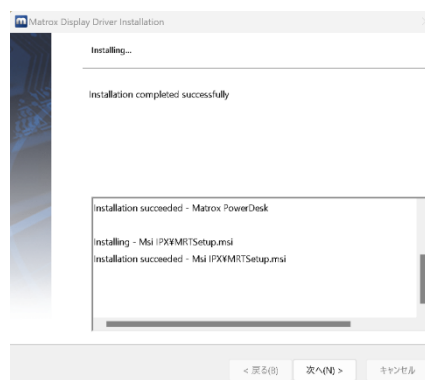
- ⑩ 「Install」をクリックしてインストールを開始します。



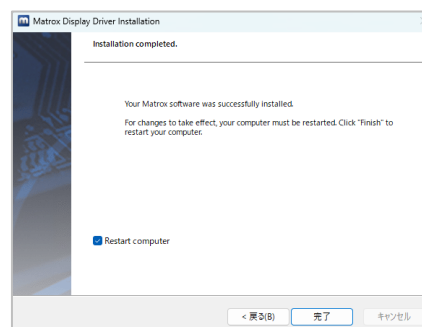
- ⑪ MrtSetup のインストールが完了したら「Finish」をクリックします。



- ⑫ インストールが成功したら、「次へ」をクリックします。



- ⑬ 全てのインストールが完了したら、「Restart computer」にチェックが入っていることを確認して、「完了」をクリックします。PCの再起動が実施されます。（ドライバーのインストール後は、必ず、PCの再起動を行ってください。「Restart computer」のチェックを外して終了した場合は、手でPCの再起動を実施してください。）



注意

- 複数枚のボードを装着して使用する場合、ドライバーをインストールする前に使用するボードを全てPCに装着してからインストール作業を行ってください。
- 使用中にボードを追加する場合、一度、ドライバーのアンインストールを行った後、再インストールを行ってください。
- 複数ボードをインストールする場合、1枚の時と比較してインストール終了まで時間がかかります。

- LUMA Pro のインストール時、Intel のドライバーが Windows によって自動的にインストールされる場合があります。この場合、LUMA Pro ボードへの Matrox ドライバーのインストールのため Matrox のほうのインストールが再実行されることがあります。
- オンボードグラフィックスはサポートされていません。LUMA Pro ドライバーをインストールする前に、システム BIOS およびデバイスマネージャーで無効化および既存のデバイスドライバーのアンインストールを行う必要があります。
- Windows を新規インストールした Xeon-W ベースのシステムでは、LUMA Pro ディスプレイドライバーのインストールが失敗し、ブルースクリーンや再起動が発生する可能性があります。

通常、ドライバーは再起動後の 2 回目の試行で正常にインストールされます。この問題を回避するために、可能であればシステム BIOS でシステムエラーと WHEA (Windows Hardware Error Architecture) を無効にしてください。

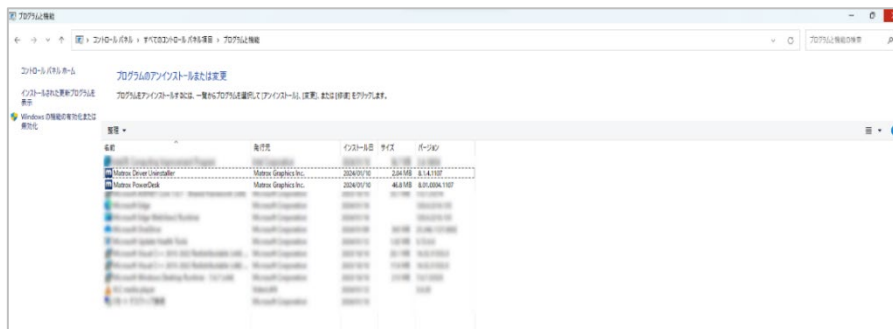
- LUMA Pro ドライバーをインストールした後、システムが再起動されるまで一部のディスプレイが黒画面のままになる場合があります。
- Windows 11 はご利用の環境によって、パフォーマンスが低下する可能性があります。その場合、Windows のパフォーマンス設定欄の中の視覚効果設定でパフォーマンスを優先する設定を行うことをお勧めします。

5.2 ドライバーのアンインストール

ボードを取り外す、また、アップデートやトラブルシュートでドライバーの再インストールを行う場合は、事前にインストール済みドライバーのアンインストールを行ってください。

- ※ 最新ドライバーへのアップデート、トラブルシュートでドライバーの再インストールに限らず、ドライバーの上書きインストールは推奨していません。

- ① Windows の「コントロールパネル」から「プログラムと機能」を開きます。
- ② 「プログラムのアンインストールと変更」で「Matrox Driver Uninstaller」、「Matrox PowerDesk」を選択してアンインストールを行います。



6 Matrox PowerDesk の設定

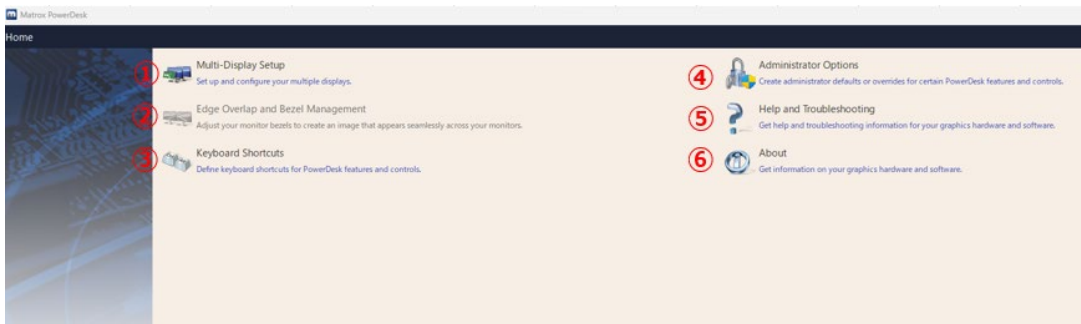
Windows 10 で Matrox PowerDesk にアクセスするには、Windows デスクトップを右クリックし、[Launch Matrox PowerDesk] を選択します。

Windows 11 で Matrox PowerDesk にアクセスするには、Windows デスクトップを右クリックし、[その他オプションを確認] メニューから [Launch Matrox PowerDesk] を選択します。

※ドライバーのバージョンによって設定の表記が異なる場合があります。

※マルチディスプレイの設定は、PowerDesk 上から行ってください。Windows の「ディスプレイ設定」から設定した場合、正常に表示が行えませんのでご注意ください。

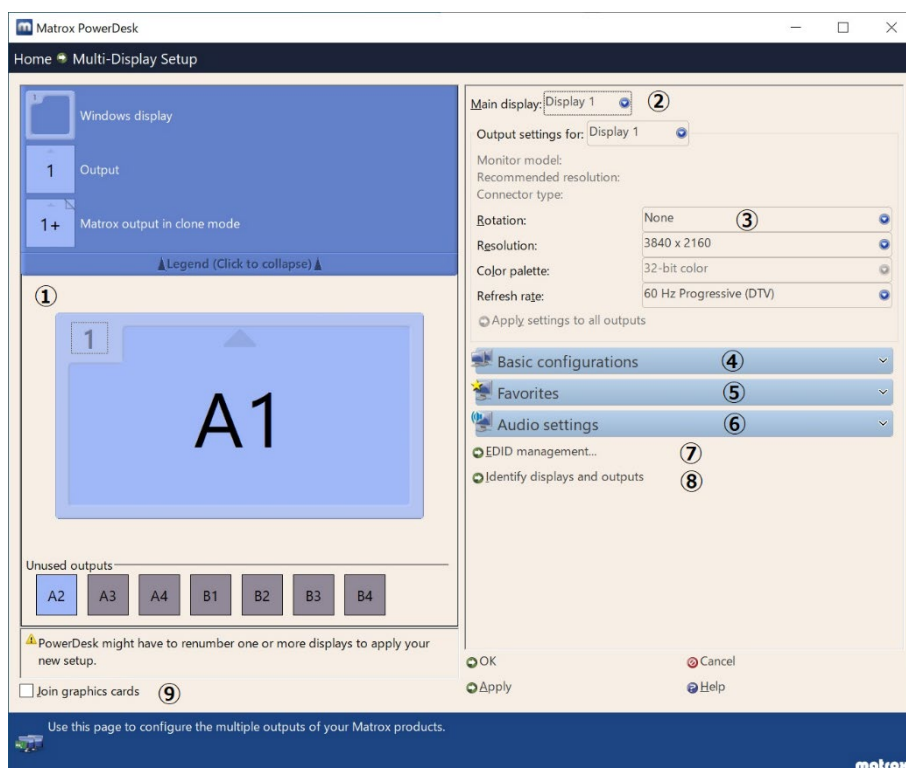
6.1 メインメニュー



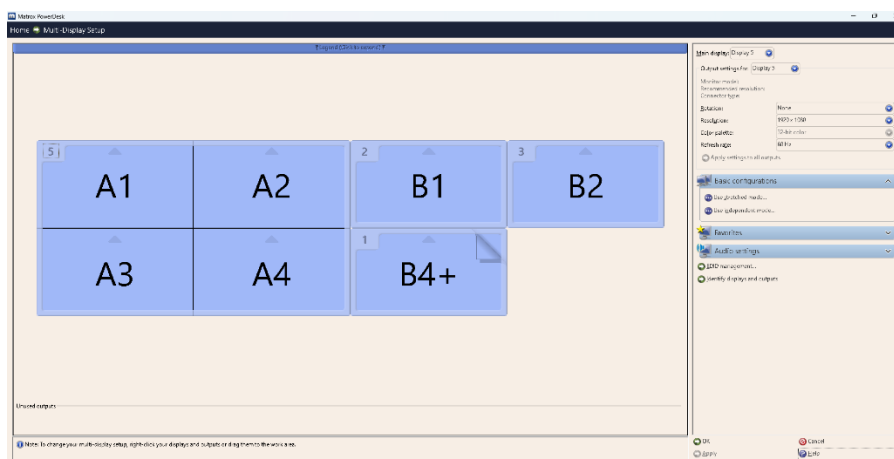
※Matrox 製グラフィックボードの M・D シリーズ等に搭載されていた「Desktop Management」の機能は 2026 年 1 月現在、サポートされておりません。

- ① Multi-Display Setup : 出力解像度やマルチディスプレイの設定を行います。
- ② Edge Overlap and Bezel Management : Stretched modes 適用時に、ディスプレイ出力の重ね合わせ部分（オーバーラップ）及び、ベゼル部分（フレーム枠）に掛かる画像のずれを調整します。
※Stretched Mode 以外の表示モード適用時にはメニューがグレーアウトし、選択できません。
- ③ Keyboard Shortcuts : キーボードショートカットを設定します。
- ④ Administrator Options : PowerDesk に管理者機能を付加します。
- ⑤ Help and Troubleshooting : オンラインヘルプおよびトラブルシュートに関する機能を設定します。
- ⑥ About : グラフィックボード及び PowerDesk の情報を表示します。

6.2 Multi-Display Setup



複数のボードを使用する際は↑の画像例のように出力番号の前にアルファベットが付与されてボード毎に識別できるように表示されます。



8 出力 Octal モデルの LUMA-A380P8 は↑の画像例のように出力 1～4 と、出力 5～8 に対して別の識別アルファベットが付与されます。

なお 8 出力 Octal モデルは 4 出力 Quad モデルを 2 枚挿入した場合と同様の認識状態となるため、次頁記載の Stretched mode (伸張表示)については出力 1～4、出力 5～8 それぞれ 4 面ずつの伸張は可能ですが出力 1～8 をまとめて 8 面の伸張表示とすることはできません。

- ① 現状のディスプレイの設定状況が表示されます。また、アイコンを直接操作することでマルチディスプレイの設定を行うことが出来ます。
- ② マルチディスプレイを設定した際、どのディスプレイをプライマリー（メインディスプレイ）に設定するか選択します。
- ③ 出力解像度「Resolution」、色数「Color palette」を設定します。マルチディスプレイを設定した際は、「Output setting for」から設定するディスプレイを選択してください。また、「Rotation」を設定することで表示角度を変更することができます。例えば、「90 degrees」の場合、時計回りに 90 度回転した縦表示（ポートレート）になります。
- ④ Basic Configurations : マルチディスプレイのモードを設定します。マルチディスプレイは、デスクトップを複数のディスプレイを使って表示する方法です。例えば、プライマリーの解像度 1920x1080、セカンダリーの解像度 1920x1080、二つのディスプレイを横に並べて 3840x1080 のデスクトップ環境を構築できます。尚、マルチディスプレイを設定するためには、2 台以上のディスプレイを接続する必要があります。

[Stretched mode (伸張表示)]

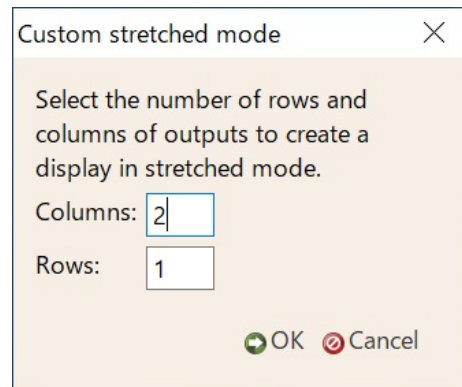
タスクバーをデスクトップ全体に表示するマルチディスプレイモードです。「Columns」(列: 水平)、「Rows」(行: 垂直) に数値を入力して設定します。例えば、「Columns : 2」、「Rows : 1」は水平方向 2 画面分、垂直方向 1 画面分の横長解像度になります。出力解像度を 1920x1080 に設定した場合、Windows からは 3840x1080 の解像度として認識されます。

「Columns : 1」、「Rows : 2」は水平方向 1 画面分、垂直方向 2 画面分の縦長解像度になります。出力解像度を 1920x1080 に設定した場合、Windows からは 1920x2160 の解像度として認識されます。

Stretched mode では、Display1 と Display2 は必ず同じ解像度になります。Display1 と Display2 で異なる解像度（例えば、1920x1080 と 1280x720）で Stretched mode を構成することは出来ません。

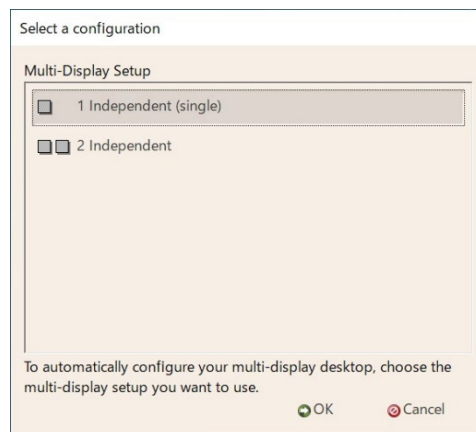
8 出力 Octal モデルの LUMA-A380P8 は 4 出力 Quad モデルを 2 枚挿入した場合と同様の認識状態となるため、次頁記載の Stretched mode (伸張表示)については出力 1~4、出力 5~8 それぞれ 4 面ずつの伸張は可能ですが出力 1~8 をまとめて 8 面の伸張表示とすることはできません。

画面構成を選択したら「OK」をクリックして設定を確定します。



[Independent mode (独立表示)]

タスクバーをプライマリー内に収めて表示するマルチディスプレイモードです。「Select a configuration」から画面構成を選択します。「2 Independent」を選択すると2つの独立したデスクトップとして認識されます。6-2 : Multi-Display Setupの③「Output setting for」から「Display 1」または、「Display 2」を選択して、個別にディスプレイの設定を行うことができます。画面構成を選択したら「OK」をクリックして設定を確認します。



- 異なる解像度を混在して使用する場合

「Independent 2」を選択し、「Display1」の解像度を 1920x1080、「Display2」解像度を 1280x720 に設定した場合、Windows からは 1920x1080 と 1280x720 の二つの独立したデスクトップとして認識されます。

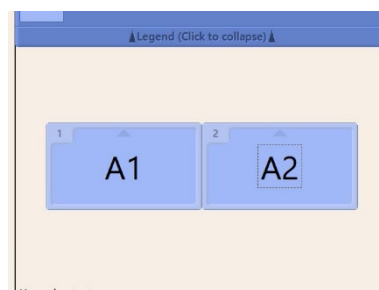
- 同一解像度を使用する場合

「Independent 2」を選択し、「Display1」解像度を 1920x1080、「Display2」解像度を 1920x1080 に設定した場合、Windows からは 1920x1080 と 1920x1080 の二つの独立したデスクトップとして認識されます。

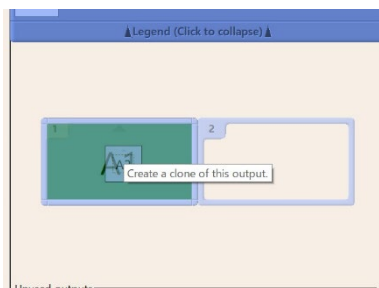
[Clone mode (複製表示)]

プライマリーの出力と同じ画像をセカンダリー以降のディスプレイに複製して出力する Clone mode は「Basic Configurations」に含まれません。Clone mode を設定する場合は、①のディスプレイアイコンを操作して設定します。ここでは、「A1」「A2」をクローン（A1 の複製）する方法を解説します。

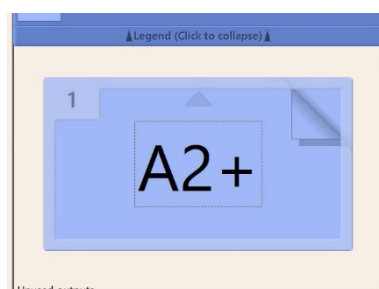
1. A1、A2 は Independent mode に設定されています。



2. A2 のディスプレイアイコンの真ん中にマウスカーソルを合わせ、A1 のディスプレイアイコンの上に重ねドラッグ & ドロップします。

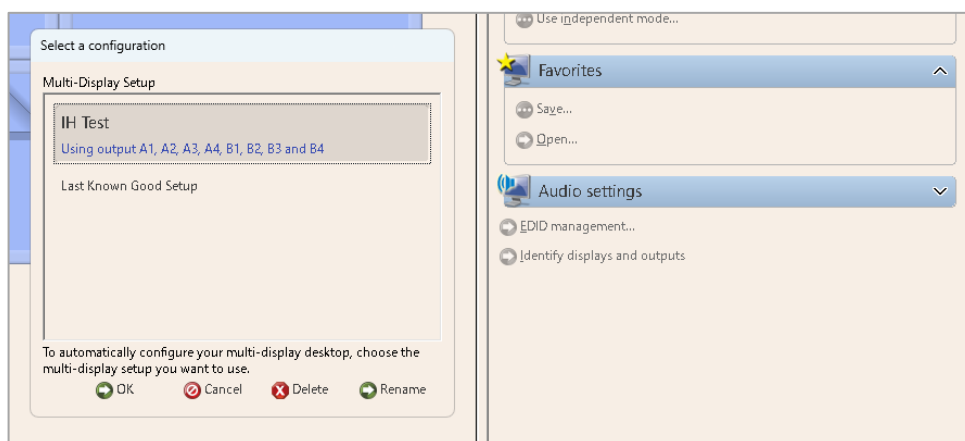


3. アイコンが重なり「+」が表示されたら、「OK」をクリックして設定を確定します。



クローンモードを解除する場合は、「Basic Configurations」から他のマルチディスプレイモードを選択するか、ディスプレイアイコンの「A2+」にマウスカーソルを合わせ、枠外にディスプレイアイコンを移動するようにドラッグ&ドロップします。

- ⑤ Favorites : マルチディスプレイの設定を保存・復元します。
 [Save] マルチディスプレイの設定を保存します。
 [Open] 保存したマルチディスプレイ設定を呼び出して、復元します。

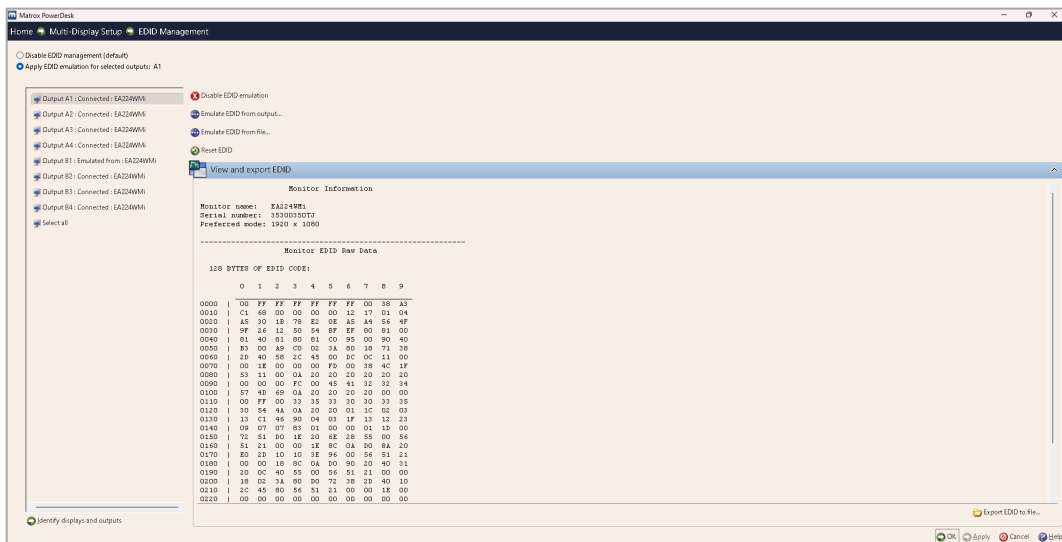


- ⑥ Audio settings : オーディオの設定を行います。Windows の「サウンドの設定」が開きます。

⑦ EDID Management : 接続されたディスプレイの EDID に関する設定を行います。

クリックするとライセンス条項が表示されますので「I accept」をクリックします。「I do not accept」をクリックすると元のメニューに戻ります。[Disable EDID management (default)] EDID management 機能を無効にします。このモードでは、Windows のプラグアンドプレイ機能に基づき、接続されたディスプレイに合わせて表示を行います。標準では、このモードが選択されています。

※EDID 機能の有効/無効の切り替えを行う際は全ての出力設定を Independent mode にして下さい。



[Apply EDID emulation for selected outputs]

接続されたディスプレイの EDID 情報を任意の出力先に割り当て保持する機能です。接続されていないディスプレイの EDID 情報ファイル (.dat) があれば、それをエクスポートして任意の出力先に割り当て保持することも可能です。この機能を無効にするには、「Disable EDID management (default)」を選択します。

注意 : 接続したディスプレイがサポートしていない解像度を追加または選択した場合、正常に表示できません。最悪の場合、ディスプレイに損傷を与える可能性があります。ご使用に当たっては十分にご注意ください。

尚、現在ご利用のディスプレイがどの解像度をサポートしているかについては、各メーカー様にお問い合わせください。

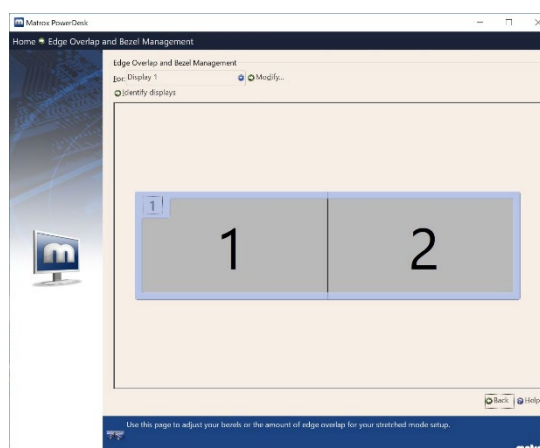
⑧ Identify display and output : ディスプレイ上に表示及び出力識別の番号を表示します。

6.3 Edge Overlap and Bezel Management

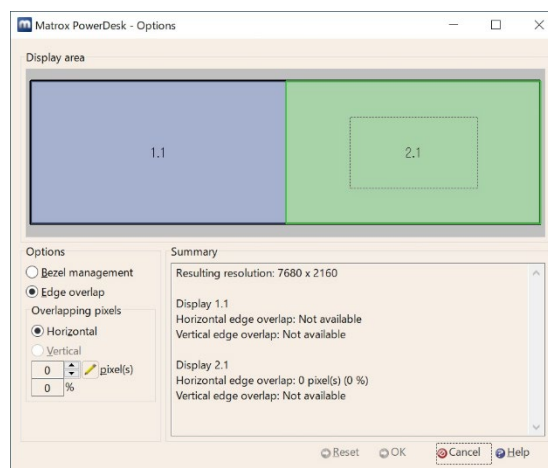
この機能は、Stretched mode でマルチディスプレイを設定している時のみに使用することが出来ます。シングルディスプレイや Independent mode/Clone mode で設定している場合は、ご利用いただけません。

Bezel Management (手順③) と Edge Overlap (手順④) は、同時に設定することは出来ません。どちらか片方のみ設定が可能です。

- ① 各出力のオーバーラップ、及び、ベゼル枠部分の調整の基準となるディスプレイをプルダウンメニューから選択し、「Modify」をクリックします。



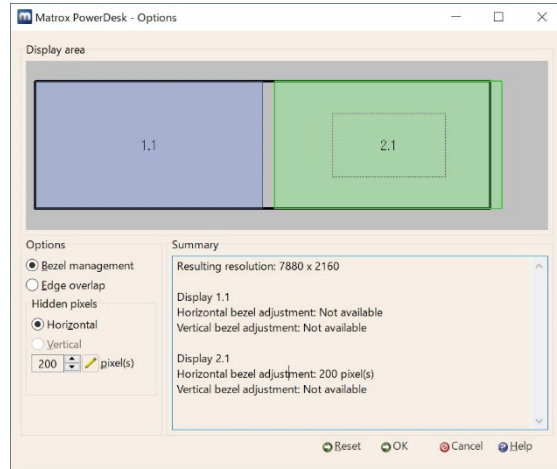
- ② ベゼル枠の調整を行う場合は、左下部の「Option」から「Bezel Management」を選択します。オーバーラップの調整を行う場合は、「Edge Overlap」を選択します。



③ Bezel Management

ディスプレイ上に表示されるスケールを確認しながら「Hidden pixels」の項目から横方向の調整は「Horizontal」、縦方向の調整は「Vertical」を選択し、ピクセル単位で調整します。調整が完了したら「OK」をクリックして設定を確定します。調整幅は、出力解像度の25%までとなります。

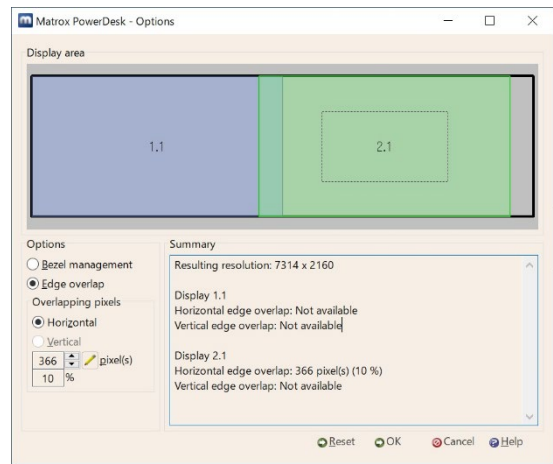
設定を解除する場合は、「Reset」をクリックします。



④ Edge Overlap

ディスプレイ上に表示されるスケールを確認しながら「Hidden pixels」の項目から横方向の調整は「Horizontal」、縦方向の調整は「Vertical」を選択し、ピクセル単位で調整します。調整が完了したら「OK」をクリックして設定を確定します。調整幅は、出力解像度の25%までとなります。

設定を解除する場合は、「Reset」をクリックします。

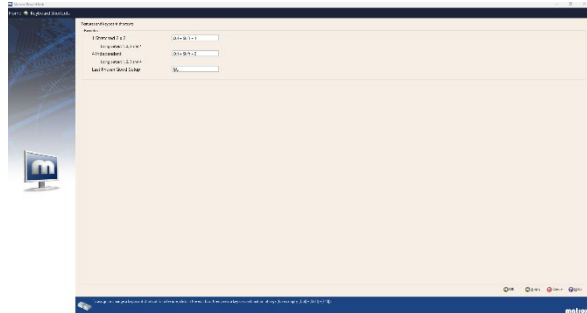


6.4 Keyboard Shortcuts

[Favorites]

Multi-display setup で Favorites に保存したマルチディスプレイの設定にショートカットを割り当てて、変更を行います。

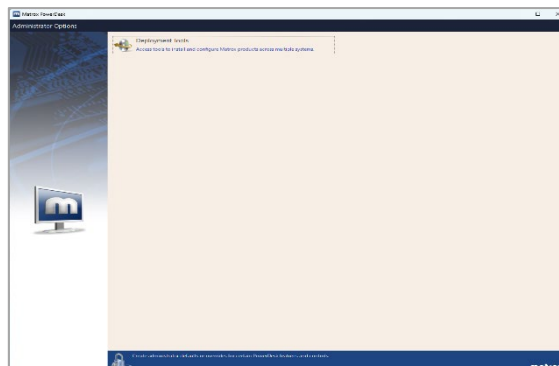
テキストボックスを選択した状態で割り当てたいキーを押下(複数あれば同時に押下)します。ディスプレイ構成を変更の度、Multi-Display Setup で設定を行う必要がなく、キーボードショートカットで瞬時にディスプレイ構成を変更することが出来ます。デフォルトで登録されている「Last Known Good Setup」は、直前に設定したディスプレイ構成に変更する際に使用します(任意)。



6.5 Administrator Options

[Deployment Tools]

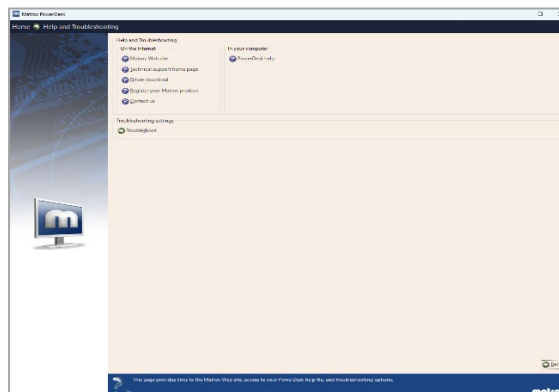
同種の Matrox グラフィックボードを大量の PC にインストールする際、予めインストールされた PC の設定ファイルを用い、同一の環境を構築します。詳細につきましては、次項 6.6 より PowerDesk 内のヘルプをご確認ください。



6.6 Help and Troubleshooting

[Help and Troubleshooting]

Matrox 社の[テクニカルサポートサイト](#)へのリンクおよび PowerDesk のヘルプをご覧頂けます。

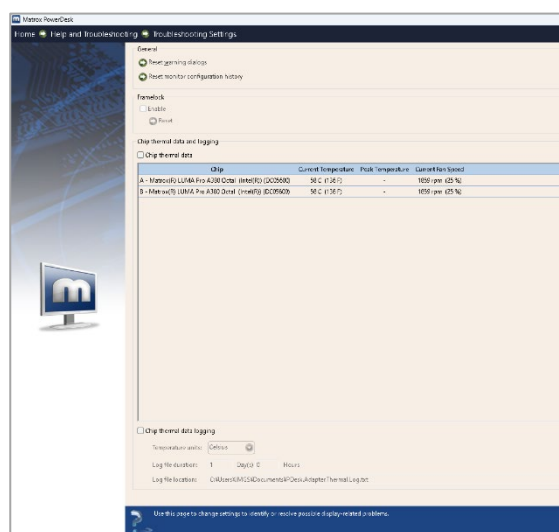


[Troubleshooting settings]

ディスプレイに関連する可能性のある問題を特定・解決する為の設定項目です。通常の使用において、これらのデフォルト設定を変更する必要はありません。

ただし、ご使用のシステムに固有の問題を特定・解決する為、設定を変更する必要がある場合があります。

各項目の詳細については、PowerDesk 内のヘルプをご確認ください。

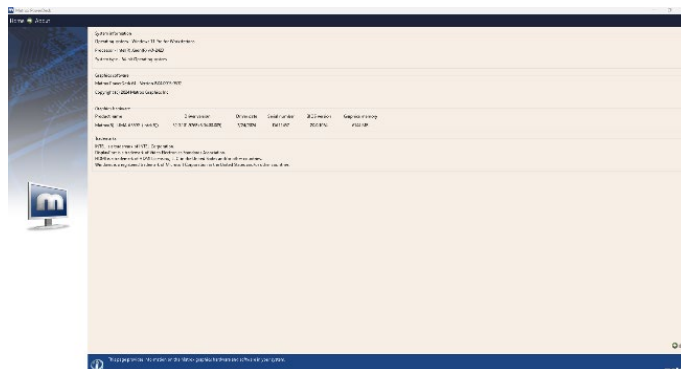


- ① Reset warning dialogs : 「Don't ask me this again(再度表示しない)」を選択して無効化したすべての警告メッセージの設定をリセットします。
- ② Reset monitor configuration history : 接続されたモニターのカッシュ済の EDID 設定と接続タイプ(デジタル・アナログ)の履歴を消します。
- ③ Flame lock : 複数枚のグラフィックボードを繋げる際のフレームロックの有効/無効を設定します。デフォルト設定は有効です。設定を反映させる際、画面のチラつきや数秒の黒画面がみられる場合があります。
- ④ Chip thermal data and logging : ボードの温度監視および温度ログを設定します。「Chip thermal data」にチェックを入れると現在およびピーク時のボード上のチップの温度をモニタリングできます。「Chip thermal data logging」にチェックを入れると現在およびピーク時のボード上のチップの温度をログファイルとして保存できます。

なお、8出力 Octal モデルの LUMA-A380P8 は4出力モデルを2枚挿入した場合と同様の認識状態となるため、本欄にはA・Bの2枚のボードを挿入しているように表記されます。

6.7 About

インストールされている Matrox グラフィックボードの情報(シリアル番号や BIOS バージョン)とドライバーや PowerDesk のバージョン等の情報を確認することが出来ます。



7 製品仕様

7.1 グラフィックボード仕様

型番	LUMA-A310FP	LUMA-A380P	LUMA-A380P8
対応 OS	Windows 11 (24H2 まで), Windows 11 64bit LTSC (24H2) Windows 10 64bit (21H2 以降), Windows 10 64bit LTSC (21H2 以降)		
GPU	Intel® Arc™ A310E	Intel® Arc™ A380E	Intel® Arc™ A380E x2
メモリ	4GB GDDR6	6GB GDDR6	12GB GDDR6
対応バス	PCIe 4.0 x16 (電氣的 x8)		PCIe 4.0 x16
フォームファクタ	ロープロファイル	フルハイト	
ビデオ出力数	4		8
コネクタ形状	4x Mini DisplayPort 2.0	4x DisplayPort 2.0	8x Mini DisplayPort 2.0
最大解像度 ※1	・ 8K@60Hz または 5K/4K@120Hz x 2 系統 ・ 5K/4K@60Hz x 4 系統		・ 5K/4K@60Hz x 8 系統
音声	miniDP 端子からマルチ ストリーム音声 x4	DP 端子からマルチスト リーム音声 x4	miniDP 端子からマルチス トリーム音声 x8
HDCP ※2	対応 (HDCP 2.3)		
ファン	ファン搭載		
消費電力	50W	75W	130W
サイズ	幅: 16.76 cm 高さ: 6.86 cm	幅: 25.38 cm 高さ: 12.68 cm	幅: 26.45 cm 高さ: 12.68 cm
ブラケット	フルハイト ロープロファイル (別途 付属)	フルハイト	フルハイト
規制対応	Class A : FCC (米国), CE (EU), RCM (オーストラリア/ニュージーランド), KC (韓国), ICES-3 (カナダ), UKCA (英国)		
環境対応	EU RoHS, China RoHS, REACH, WEEE		

上記の内容は予告なく変更する可能性があります。

※1 : Quad モデルは出力ポート 2 または 4 のみ 8K 出力が可能ですが、PowerDesk から設定を行うことができません。8K 出力の場合は PC のディスプレイ設定から解像度設定を行う必要があります。

※2 : ご利用のハードウェア・ソフトウェアにより一定の制限が適用される場合があります。Matrox 社は、HDCP ウェブサイト (www.digitalcp.com) を確認することを強く推奨します。法律上の義務および責任をご確認ください。

7.2 環境仕様

動作環境	
温度	0~45℃ (ボード周囲)
湿度 (室内)	20~80% (結露なきこと)
気圧	650hPa (3,580m) ~ 1013hPa (0m)
保管環境	
温度	-40~70℃
湿度	10~95% (結露なきこと)
気圧	192hPa (12,000m) ~ 1020hPa (-50m)

7.3 注意事項と制限事項

- ◆ Matrox 社のグラフィックボードは、VGA 互換を持ち、次の VESA 規格をサポートします。
VEB3.0 (Super VGA modes)
DPMS (energy saving)
DDC-2B (Plug-and-Play monitor) 及び DDC-CI
- ◆ EDID 1.2、1.3、1.4 をサポート
- ◆ 表示解像度と利用できるリフレッシュレートは、ご利用のソフトウェアの表示設定、接続するディスプレイにより異なります。詳細については、各ソフトウェア、ディスプレイの仕様をご確認ください。
- ◆ 1 枚の LUMA-A310FP または LUMA-A380P から 2 系統の 8K@60 Hz または 5K/4K@120Hz を出力する場合、ディスプレイは出力ポート 2・4 に接続する必要があります。
- ◆ LUMA Pro シリーズの異なるモデルを混在させてインストールすることはできません。
- ◆ 映像表示中にケーブルの抜き差し、ディスプレイの故障などが発生し正常な構成で表示ができなくなった場合は、PC を再起動し PowerDesk から再び設定を行ってください。